当社グループの事業の概況

全般的な概況

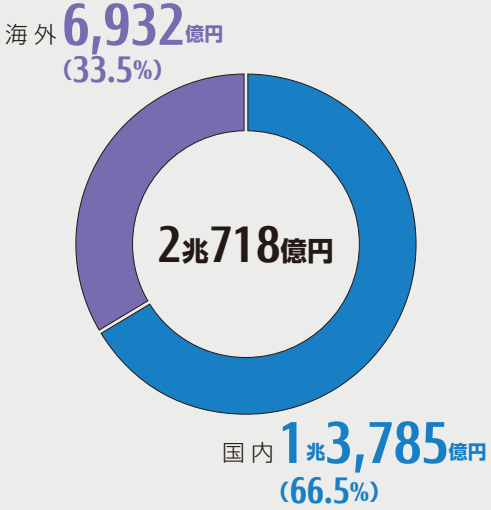
売上高
2兆718億円 → △1.0%（前年同期比）

営業利益
76億円 ↗ +6億円（前年同期比）

経常利益
29億円 ↗ +49億円（前年同期比）

当期純利益
△110億円 ↘ △168億円（前年同期比）

売上高（国内／海外比）



※売上高は外部顧客に対する売上高です。

当中間期における売上高は、2兆718億円（前年同期比1.0%減）となりました。国内では、サーバ関連、LSIの売上が減少しましたが、携帯電話や、携帯電話基地局が増収となったため、1兆3,785億円（前年同期比2.4%増）となりました。海外では、インフラサービスが欧州の景気悪化の影響や英国政府の緊縮財政の影響に加え為替の影響を受け減収となったほか、北米向けの光伝送システムが、北米通信キャリアの投資が無線通信向けにシフトしている影響を受け減収となり、6,932億円（前年同期比7.0%減）となりました。

営業利益は76億円（前年同期比6億円増）となりました。LSIや光伝送システムなどの減収影響のほか、欧州でドル建ての部材調達コストが上昇したことにより、売上総利益が悪化しましたが、グループ全体での費用効率化により吸収し、増益となりました。

経常利益は、29億円（前年同期比49億円の改善）となりました。前年同期に比べ為替差損が減少したことにより、営業外損益が改善しました。

当期純利益は、110億円の損失（前年同期比168億円の悪化）となりました。前年同期には欧州子会社の清算決定やグループ内再編のための株式譲渡に伴う税金費用の減少効果があったことによります。

当社グループのセグメント

テクノロジーソリューション

サービス
- ソリューション／SI
- インフラサービス

システムプラットフォーム
- システムプロダクト
- ネットワークプロダクト

華南データセンター

仮想化環境向けストレージ「ETERNUS VX740」

ユビキタスソリューション

パソコン／携帯電話

モバイルウェア

ノートパソコン「LIFEBOOK UHシリーズ」

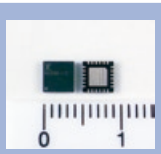
スマートフォン「F-10D」

カーナビゲーション「AVN-Z02i」

デバイスソリューション

LSI

電子部品


RFIDタグ用IC「MB89R112」

サーマルプリンタ「FTP-628WSL200シリーズ」

新たな分野へのクラウド技術活用のご紹介

～高齢先進国モデル構想の実現に向けて～

当社は、来たる超高齢社会を見据え、「高齢先進国モデル構想会議」に参加し、在宅医療を通じて高齢社会における地域コミュニティモデルの創造に取り組んでいる医療活動をICTで支援しています。

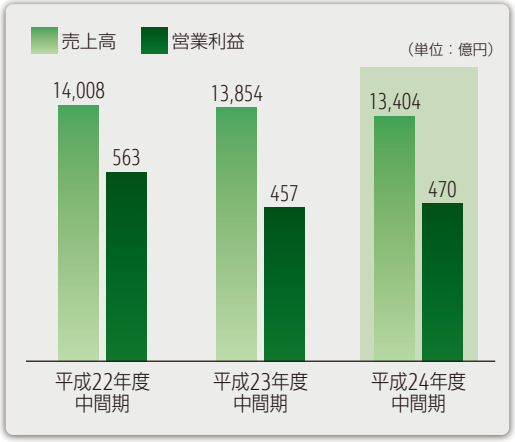
この活動は、高齢化率の高い東日本大震災の在宅被災者支援としても行われ、当社はICTにより、宮城県石巻医療圏の在宅被災者の健康・生活情報の共有化に貢献しました。

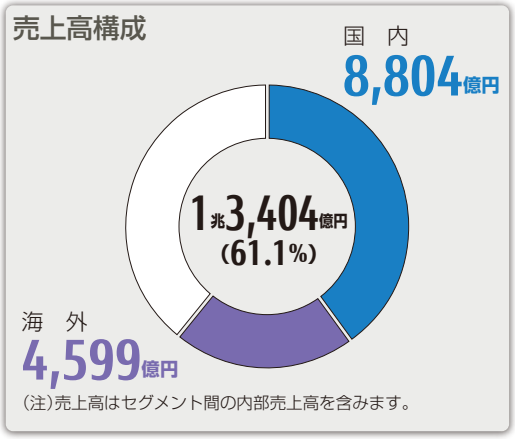
さらに、被災地における活動を通じて明らかになった高齢社会の多様な課題をクラウドサービスによって解決しようと、被災地で社会実証を進めています。この中で、高齢者に適時、適切な医療、介護、生活サービスを提供するために、医療や介護、高齢者の生活支援に従事する様々な職種の間で、クラウド技術による円滑な情報連携を推進しています。

テクノロジーソリューション

売上高
1兆3,404億円 △3.2%（前年同期比）

営業利益
470億円 +13億円（前年同期比）





（注）売上高はセグメント間の内部売上高を含みます。

テクノロジーソリューション	売上高構成比
サービス	81.3%
システムプラットフォーム	18.7%

「テクノロジーソリューション」は、情報システムの構築などを行うシステムインテグレーションやICT運用管理などの受託を行うアウトソーシングサービス、ネットワークサービスなどの「サービス」と、サーバやネットワークなどICTの基盤となる「システムプラットフォーム」により構成されており、当社グループは、これらを一体とした総合的なソリューションをお客様に最適な形で提供しております。

当中間期における当セグメントの売上高は、1兆3,404億円（前年同期比3.2%減）となりました。このうち、国内は8,804億円（前年同期比0.7%増）、海外は4,599億円（前年同期比9.9%減）となりました。

営業利益は、470億円（前年同期比13億円増）となりました。

サービス

「サービス」では、ビッグデータ（※）を活用したサービスや農業、医療などの分野にクラウドサービスを拡大しています。これに対応して、ソフトウェアとクラウドサービスの連携や、データセンターなどのサービス基盤の整備、ネットワークサービスの拡充などに取り組みました。

また、海外事業の収益性を向上させるため、グローバルなサービス共通基盤を整備いたしました。

当中間期の売上高は1兆892億円（前年同期比2.6%減）となりました。国内では、金融機関向けを中心とした大型システム開発案件が減少したものの、製造業、流通業、公共機関などでICT投資が回復し、これらの業種向けでシステムインテグレーションが増収となったほか、通信量の増加対策を背景

としてネットワークサービスが増収となりました。海外では、豪州や北米におけるデータセンター事業の売上は堅調なものの、欧州で景気悪化を背景とした企業の投資抑制や英国政府の緊縮財政政策の影響を受けて減収となり、「サービス」全体では減収となりました。

営業利益は、欧州における減収影響に加え、英国子会社での退職給付費用の負担増がありましたが、欧米のサービス事業の採算性が改善したほか、国内でネットワークサービスの増収効果があり、373 億円（前年同期比 73 億円増）となりました。

※ビッグデータ
人の活動や物の動きから生まれる膨大かつ多種多様なデータ

システムプラットフォーム

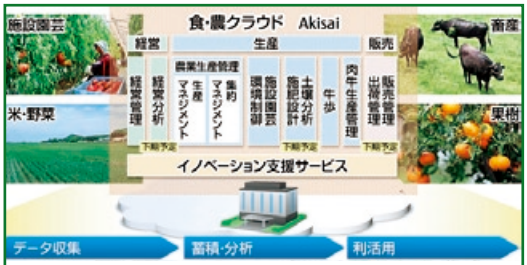
「システムプラットフォーム」では、国内および海外で PC サーバの拡販を推進したほか、PC サーバやストレージシステムで Fujitsu Technology Solutions（Holding）B.V. と製品を統一し、コストダウンに取り組みました。

また、ネットワークプロダクトの分野では、LTE サービスのエリア拡大に対応しました。

当中間期における売上高は 2,511 億円（前年同期比 5.8%減）となりました。

国内では通信キャリアにおける LTE サービスのエリア拡大と通信量の増加対策を背景として携帯電話基地局などのネットワークプロダクトが増収となりましたが、大型システム開発案件の減少によりサーバ関連が減収となり、国内全体では前年同期並みとなりました。海外では、UNIX サーバが北米向けを中心に減収となり、PC サーバは価格低下の影響により減収となりました。また、光伝送システムは、北米通信キャリアの投資が無線通信向けにシフトしている影響により減収となりました。

営業利益は、携帯電話基地局などの国内向けネットワークプロダクトの増収効果に加え、PC サーバなどのコストダウン効果はありましたが、大型システム開発案件の減少によるサーバ関連の減収影響、北米向けの UNIX サーバや光伝送システムの減収影響があったほか、ネットワークプロダクトを中心に先行開発投資が増加し、96 億円（前年同期比 59 億円減）となりました。



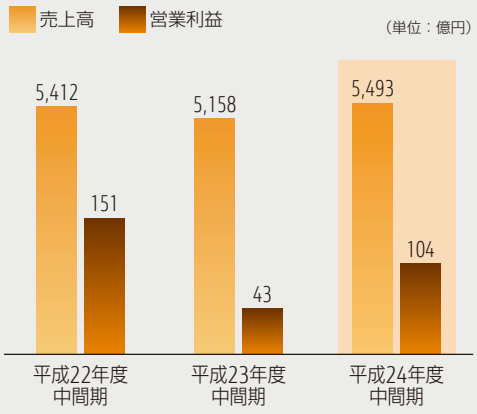
当社は、ICT で農業経営を飛躍的に効率化させる食・農クラウド「Akisai（アキサイ）」を本年 10 月より順次提供してまいります。本サービスは、米・野菜などの露地栽培、施設園芸、畜産において、経営・生産・販売といった農業経営全般を ICT で包括的に支援し、「豊かな食の未来へ ICT で貢献」をコンセプトに、生産現場の ICT 活用を起点に流通・地域・消費者をバリューチェーンで結ぶクラウドサービスです。

インテル社の CPU「インテル® Xeon®E3 ファミリー」と「インテル® Xeon®E5 ファミリー」を搭載し、処理性能、省電力性能を強化した、PC サーバ「PRIMERGY」の新モデルを本年 5 月から販売を開始いたしました。

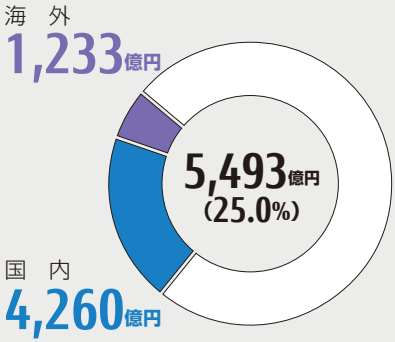
ユビキタスソリューション

売上高
5,493億円 ↗ **+6.5%**（前年同期比）

営業利益
104億円 ↗ **+60億円**（前年同期比）



売上高構成



（注）売上高はセグメント間の内部売上高を含みます。

「ユビキタスソリューション」は、パソコン、携帯電話のほか、オーディオ・ナビゲーション機器などのモバイルウェアにより構成されています。

当中間期においては、パソコンでは、タブレット需要の増加に対応したディスプレイ着脱式の新モデルを発売し、携帯電話では、らくらくスマートフォンなどの新機種を投入しました。モバイルウェアでは、新興国市場での事業拡大のため、製造・販売体制の整備を進めました。

当中間期における売上高は 5,493 億円（前年同期比 6.5%増）となりました。

パソコンでは、国内の企業向けや海外向けで出荷台数が増加したものの、価格低下の影響や国内の個人向け販売の不振、為替影響により、減収となりました。一方、スマートフォンやタブレット端末の市場が拡大している携帯電話が増収となったほか、前年同期に比べ自動車生産が回復したことによりモバイルウェアが増収となりました。

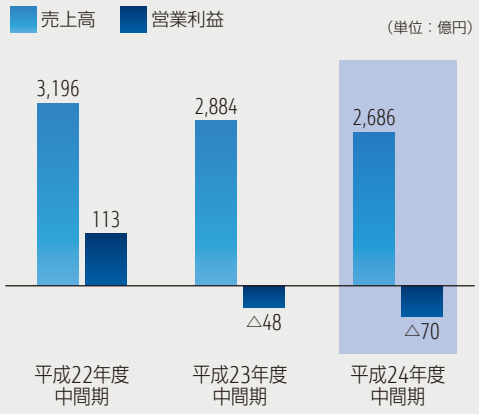
営業利益は、パソコンは、価格低下の影響があったうえ、欧州でドル建ての部材調達コストが増加したことにより、減益となったものの、携帯電話の増収効果やモバイルウェアの増収効果と構造改革効果により、104 億円（前年同期比 60 億円増）となりました。

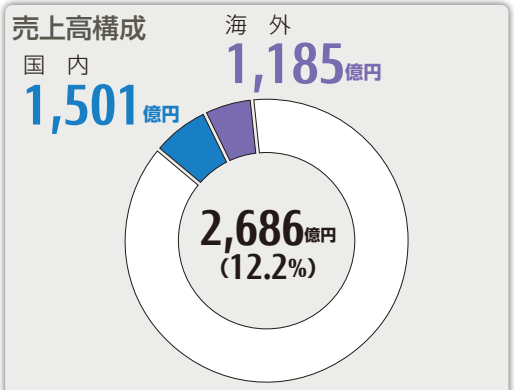
タブレットとノートパソコンの両方の使い方ができる新しいスタイルのパソコン「STYLISTIC QH77/J」を本年 10 月に発売いたしました。外出時などは、液晶部分を取り外してタブレットとして利用できるほか、タッチペンによる手書き入力も可能です。

デバイスソリューション

売上高
2,686億円 ↘ **△6.8%（前年同期比）**

営業利益
△70億円 ↘ **△22億円（前年同期比）**





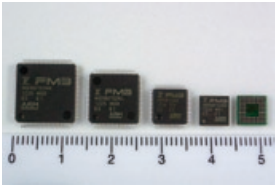
（注）売上高はセグメント間の内部売上高を含みます。

「デバイスソリューション」は、デジタル家電や自動車、携帯電話、サーバなどに搭載されるLSIや、半導体パッケージ、電池をはじめとする電子部品により構成されています。

当中間期においては、富士通セミコンダクター株式会社の岩手工場を譲渡し（10月1日に完了）、さらにLSI後工程製造拠点の譲渡を進めるなど事業基盤の強化と経営体質の改善に努めました。

当中間期における売上高は、2,686億円（前年同期比6.8%減）となりました。国内では、LSIが、前年同期には次世代スーパーコンピュータシステム用CPU向けの売上があった反動で減収となったことに加え、自社サーバ向けやデジタル家電向けが減収となり、電子部品では電池が減収になりました。海外では、LSIが欧州向けを中心に減収となり、米国向けを中心に電池も減収になりましたが、アジア向けを中心に半導体パッケージが増収となりました。

営業利益は、半導体パッケージが増収により増益となりましたが、LSIの減収と基盤ラインでの工場稼働率の低下などにより、70億円の損失（前年同期比22億円悪化）となりました。



ARM® 社製 Cortex™-M3 コアを採用した32ビット汎用マイコンFM3ファミリの第5弾93製品の販売を開始し、第1弾から第5弾まで463種類のラインナップとなりました。